

3. 国際共同研究

【採択時公表】

3- (1) 全体概要

本欄には、本事業を実施することにより、到達目標へどのように繋げていくのかを、2. に記載した実施体制等を含めて、全体的な概念を図等を使って分かりやすく示した上で、以下に続く3- (2) 研究目的及び到達目標、3- (3) 研究計画・方法の各項目について全体的な概要を簡潔にまとめて記述してください。(図と記述で1頁以内)
 なお、本欄(3- (1))は採択された場合、採択後本会HP等で公表される予定です。

【研究目的及び到達目標】

＜研究目的＞ 「芸術」の概念が多様化し、各メディアの絶対的自律性に対する懐疑が研究の大前提となっている現在、本事業では、**国立総合芸術大学として、音楽と映像の領域融合型研究を推進**する東京藝術大学が、**メディア研究における世界トップレベルの研究者グループとの交流**を通じて、**音楽と映像という二領域間の交差が提示してきた表現可能性の射程**を検証し、その検証を礎とした、**マルチメディア・コンテンツに関する領域融合型の実践的な国際共同研究を推進するための国際ネットワーク構築**を目指す。

70年代以来、音楽領域における電子媒体の援用をはじめ、音楽創作と映像創作は、様々な形で相互補完的な役割を担っており、国際的なメディア研究においても音楽と映像を一体的に捉えているが、本事業では、**音楽・映像領域の「創作」と「研究」をより密に連携させ、実践的研究体制のプロトタイプを確立**すべく、**新たな国際的協働体制の構築**を目的とする。**芸術大学独自の視点から、映像と音楽の各領域の研究・実践両面での国内最高水準の研究力・人的リソース等アドバンテージ**を活かし、国際ネットワークを構築してイニシアティブをとることで、**メディア研究分野における世界トップレベルへの飛躍**を目指す。

＜到達目標＞

- ◆音楽・映像両領域を包摂する芸術作品群の創作研究のための**理論的枠組みの提示**(マルチメディア・コンテンツに係る技法、媒体、美学的傾向、文化背景等、体系的な作品分析のための指針づくり)
- ◆**メディア研究における研究と実践を横断する新たな研究ネットワーク作り**(映像・音楽両領域の研究者と創造者が領域を超えて有機的に連携・融合することで**新たな実践へと発展させるネットワーク基盤を構築**)
- ◆本研究で得られた**先進的なメディア研究および創作成果の世界レベルでの共有**、日本の音楽・映像領域の若手研究者・創作者の国際交流や国際研究活動の活性化、**国際共著論文・被引用論文数の増大**等

【研究計画・方法】

学内研究領域の有機的連携を強化するとともに、**領域融合型のメディア研究・実践において世界最高水準にあるパリ第4大学、ボルドー芸術大学、スタンフォード大学等の研究者グループと国際連携ネットワーク基盤を構築し、若手の研究者および創作者が国際研究ユニットを編成して相互交流・共同研究プロジェクトを推進**することにより、音楽と映像を横断する**領域融合型の実践的なメディア研究**を実施する。

マルチメディア・コンテンツを課題として、その**創作について、歴史的、美学的、技法的視点から分析する理論を構築**するとともに、さらにそれを**創造へと援用する研究**の枠組みは、**世界的にも未だ確立されていない先駆的取組**であり、特に本事業では、以下の3つの視点により研究プロジェクトを実行する。

◆音楽・映像領域を横断する作品およびメディア研究事例の検証

若手研究者を連携機関へと派遣し、連携機関研究者グループとともに過去の事例の体系的分析を行う。とりわけ、事例のインキュベーターとなった文化的土壌に着目し、孤立した個人的業績として整理されてきたマルチメディア・コンテンツの生成過程を以下の3つの観点により検証する。

- ① 特定の作品の創造・実践を促したテクノロジー、文化背景、芸術伝統の横断的な検証
- ② 特定の作品の創造・実践を促した他領域(例:アニメ、社会現象、テクノロジー上の発展等)の事例検証
- ③ 特定の作品の創造・実践を促した「機関 institution」(例:教育研究機関、公的プログラム)の検証

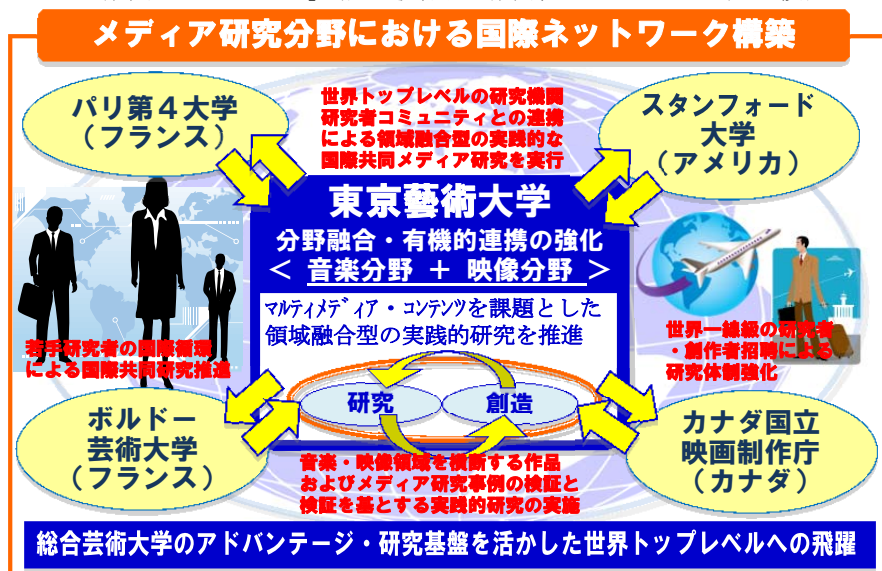
◆上記検証を基とする実践

的メディア研究の実施

次世代マルチメディア・コンテンツに求められるものや新たな芸術表現への可能性等を上記検証結果を実践へと結実させる。

◆上記取組を通じた国際ネットワーク基盤の構築

メディア研究領域で世界トップレベルの研究機関等との研究者派遣・交流事業実施を通じて、メディア研究・創作の研究者コミュニティによる領域融合型の実践的研究国際ネットワークを構築する。



(平成28年度公募)